

「公益財団法人 日本城郭協会 平成26年度事業報告書」

平成27年5月

1、「日本100名城スタンプラリー」事業の強化と発展ための施策

当協会選定の日本100名城を探訪する「100名城スタンプラリー」はますます評価が高く、100名城登城達成者は外国人を含め650人を超えた。外国人のスタンプラリー参加者がふえており、外国人が参加しやすい環境づくりのため各城と協力してきめ細かな情報提供が必要となる。登城達成者からの要望で準備を進めてきた「認定証盾」は平成26年5月から発行を開始し、27年3月までに受領者は150人を超えた。

2「城の自由研究コンテスト」「親子名城見学会」の開催

「城の自由研究コンテスト」「親子名城見学会」は平成14年度からの学校における総合的学習の登場と、体験学習の重視に応じて開始したが、教育関係者・児童生徒から支持をえて、大きな教育的成果を上げている。「第13回城の自由研究コンテスト」は朝日学生新聞社・公文教育研究会との共催で開催、プラモデルの「童友社」の協賛を得た。応募作品の質は年々向上しているが、応募作品数は残念ながら減少しており、各教育委員会や学校へのPR強化が今後の課題である。

「第13回親子名城見学会」は江戸城、駿府城、松本城、犬山城、二条城、名護屋城の6城で開催した。二条城では初めて大学の城郭研究部(立命館大学城郭研究部)の協力を得て行ったが、参加者には好評だった。名護屋城では特別企画として発掘現場見学や野点が行われたが、今後の見学会のあり方に一石を投じた内容となった。

3、「日本城郭検定」の充実、強化

日本城郭検定は本年度2回開催した。平成26年6月開催の第4回から検定人口のすそ野を広げるため入門クラスの4級を新設したが、約300人が受験した。生涯学習事業として城郭ファンのみならず一般の人々への広報、PRの強化をはかり、業界広報誌への記事掲載や出版社と連携してPRを展開した。

4、学術委員会の活動強化

学術委員会の活動強化のために、26年5月の評議員会で定款修正を行い、これまでの諮問機関から実行機関に衣替えした。

これにより学術委委員会は「日本城郭検定」の問題作成・監修にかかわると共に城講座開催やシンポジウム企画さらにマスコミへの城に関する学術情報提供を行った。

5、「ヨーロッパ100名城」の社会的認知度の向上

「ヨーロッパ100名城」及びスタンプラリーの社会的認知度を高めるための広報活動を行ったが、現状は認知度は高いとは言えない。

ただ「ヨーロッパ100名城スタンプラリー」の参加者は少しずつ増えており事業発展に努力する。

6、城郭文化活動としての「城情報提供活動」及び「ミニ城講座」の開催

新聞・テレビ各社からの取材や番組制作に関しアドバイスや監修を行うと共に、一般の人々からの城に関する様々な問い合わせにはきめ細かく対応した。

東京都練馬区図書館と連携してミニ城講座を開催した。

7、会報・ホームページの充実および会員へのサービス強化

会報の増ページとホームページの改装を行った。特にホームページの改装や内容更新は城郭ファンからの評価を得た。